



かわら版



- 鼓動 健康と友愛
石川県早朝野球協議会 副会長 村山 和光
- 平成30年度花いっぱいをつどい・花いっぱいコンクール表彰式
- 平成30年度絵本センターをつどい
- 健民運動活動紹介
子供・若者育成支援のための地域連携推進事業（中央研修大会）
- 子どもの夢実現サポート事業（続報）
- 薫風 風を感じて走るサイクリングの楽しみと交流
石川県サイクリング協会 理事長 岡本 勇
- 「あいむ」だより

毎月7日は「健康の日」です。

～ 歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう ～

鼓動

石川県早朝野球協議会
副会長 村山 和光

健康と友愛

『健康と友愛』のスローガンのもとに、早朝のグラウンドのあちらこちらで「おはよう」「おはようございます」の挨拶が交わされ、早朝野球のスタートです。午前5時半プレーボール、午前7時にはゲームセット、春先ならば身が引き締まるくらいに寒く、手に息をかける姿が目立ちますが、夏ともなれば日中の酷暑と大違いで、朝のすがすがしさは格別であり、まさしく早朝スポーツの醍醐味であります。「ひと汗かいて、さあ仕事!」、こうした野球好きが集まるのが県早朝野球協議会であります。

昭和51年に県下10団体の交歓大会が始まり、昭和53年には、石川県早朝野球訪ソ親善使節団（金沢・小松・加賀・根上）総勢59名がソ連に初めて野球というスポーツを紹介しました。当時は大変な話題となり、TVや新聞で報道され、誠に意義深い訪ソ親善であったと思います。

この訪ソをきっかけに昭和56年当時、県内には17団体、54リーグ、485チーム、230名の登録人数となり、この17団体を対象に早朝野球協議会への加入を呼び掛けたところ、15団体（輪鳥、門前、富来、穴水、志賀、羽咋、金沢、野々市、鶴来、吉野谷、辰口、寺井、根上、小松、加賀）の加入があり、ここに石川県早朝野球協議会がスタートしました。

毎年、幾つもの名勝負があり、各市町の言葉での応援合戦も楽しいものであります。数々の歴史を積み重ねて、昨年、第38回目を迎えた石川県早朝野球選手権大会は各地区（志賀、羽咋、金沢、野々市、白山、能美、小松、加賀）で勝ち抜いた8チームが9月23日（日・祝）、野々市市民野球場で1回戦を行い、9月30（日）、「太陽と緑に親しむ健民祭」の会場、西部緑地公園の石川県立野球場で準決勝、決勝を行いました。毎年一度だけの大会ですが、選手たちは野球のメッカである県立野球場での決勝戦を夢みて、各地で予選を頑張っています。これからもずっと、県民に愛される早朝野球でありたいと思っています。



◇ 平成30年度花いっぱいのつどい・ 第54回花いっぱいコンクール表彰式

11月18日（日）午後1時から県庁行政庁舎19階展望ロビーで、平成30年度花いっぱいのつどいが開催され、第54回花いっぱいコンクールの表彰式が行われました。花いっぱいコンクールは、心豊かな生活環境づくりを推進する運動の一環として、石川県民の手づくりによる花いっぱい運動が全县くまなく広がることを願って実施されており、今年で54回目になります。応募のあった49花壇について、現地審査と総合審査を行った結果、次の19の花壇が表彰されました。

| 部門 | 賞 | 氏名・団体名 | 所在地 |
|---------------------------------------|-----|----------------------------|-------------|
| 個人の部A | 優秀賞 | 林 紀子 | 白山市 |
| | 奨励賞 | 太田一明・太田澄枝 | 白山市 |
| 幼少年の部B | 奨励賞 | 鶴来会 くらやま保育園 | 白山市 |
| | 奨励賞 | 松任中央福祉会 はくさんひかり園 | 白山市 |
| 小学校の部C | 優秀賞 | 白山市立東明小学校 | 白山市 |
| | 優秀賞 | 白山市立明光小学校 | 白山市 |
| | 奨励賞 | 白山市立白嶺小中学校 | 白山市 |
| 中学校の部D | 優秀賞 | 白山市立鳥越中学校 | 白山市 |
| | 奨励賞 | 白山市立鶴来中学校 | 白山市 |
| 高等学校の部E | 奨励賞 | 石川県立金沢伏見高等学校 | 金沢市 |
| 一般の部F (50坪以上：165㎡以上) | 優秀賞 | 花の会・つるぎ | 白山市 |
| | 奨励賞 | 千路老人クラブ | 羽咋市 |
| 一般の部G (10坪以上50坪未満： 33㎡以上165㎡未満) | 優秀賞 | 西軽海1丁目町内会 | 小松市 |
| | 奨励賞 | エイキ株式会社 ツバキの会 | 小松市 |
| | 奨励賞 | 白山市知気寺町 | 白山市 |
| | 奨励賞 | 「花の会・つるぎ」林地区 野々市市教育センター | 白山市 野々市市 |
| 一般の部H (10坪未満：33㎡未満) | 優秀賞 | J A小松市今江女性部 | 小松市 |
| | 奨励賞 | 金平町老人会 花びらの会 | 小松市 |

【優秀賞の花壇】



個人の部A 林紀子



小学校の部C 東明小学校



小学校の部C 明光小学校



中学校の部D 鳥越中学校



一般の部F 花の会・つるぎ



一般の部G 西軽海1丁目町内会



一般の部H JA小松市今江女性部

応募花壇の現地審査は、9月18日・19日・20日の3日間にわたって、延べ9人の審査委員により行われ、10月19日に総合審査会を開催しました。応募くださった皆様、ありがとうございました。

今後も、仲間同士や個人で楽しみながら花壇づくりに取り組んでいただき、花いっぱい運動が全県に広がるようご協力をお願いします。

【表彰式等】



開会挨拶（玉屋匡康事務局長）



表彰式の様子

【審査講評】（要旨抜粋）

審査委員長（石川花の会会長） 土屋 照二

今年は、植え付け時から夏前までの低温、8月のかつてない酷暑、9月に入ってから台風、長雨と続き、花づくりには厳しい環境となりました。特に台風からの回復が心配されました。場所によってはかなり悪天候の影響を受けて、十分な発育・開花が得られていない花壇が見受けられました。一方、そうした最悪の状況下でも元気に育ち、美しい花をいっぱい咲かせたものもありました。皆様の並々ならぬご努力に敬服いたします。今年残念ながら立派に育たなかった方々も、また立派に育った方々も、今年の花いっぱいを来年の花いっばいに是非つなげていただきたいと思えます。



コンクール応募総数は昨年と同数の49件でした。石川花の会理事8人による審査では、花が元気に育って美しく「迫力」があるか、管理や構成に「工夫」があるか、花壇管理や環境整備に「努力」があるか、各花壇設置場所での「規模」が適切であるかについて評価いたしました。

おわりに、このコンクールは、「人びとの花への愛情が健康に育ち、明るい環境の中で全県民の心が豊かになること」を願うものです。今後も、皆さまが協力し合って自分たちの手で世話をし育てた美しい花たちで県下をいっぱいにしていただくことをお願いいたします。

【体験発表】（要旨抜粋）

小学校の部 白山市立明光小学校長 松下 浩一

明光小学校では、「花の呼びかけにも気づく感性を持った子どもの育成」を目指しています。道端に咲いている花に気付き、その花をきれいだなあと思ったり、その花に健気さや可憐さを感じたりする心と、瑞々しい感性を持った子どもたちであってほしいと願い、本校の花壇の手入れや世話をしています。



本校の花壇づくりでは、毎年テーマを決めて、デザイン性を大切にするように気をつけています。昨年度の春は「春のプロムナード」、秋は「情熱の赤の花束」でした。今年度は、春の「ト音記号」と秋の「虹と陽光」でした。特に、春のト音記号のデザインには苦労しました。

本校の花壇づくりには、教頭先生を中心とした職員たちの活躍が欠かせません。その上で、6月と11月にPTA主催の「花いっぱい運動」で児童と保護者が一緒に苗を植えます。この苗も、実はその多くを「つるぎ・花の会」会員の中島満先生のご厚意で地域から頂戴し、植えさせていただいておりました。

ところで、本校には「やさしさリレー」という取組があります。これは、他者から優しくしてもらったら、その感謝の気持ちをその人にお返しするのではなく、他の人二人以上に優しさを送ること、すなわち「恩返し」ではなく「恩送り」のことを指しています。そこで、今年度はこの「やさしさリレー」を花壇づくりにも生か

すことにしました。本校で苗を育てて、他の学校に送る、まさに「花のやさしさリレー」です。2000株の苗を市内外の小中学校へ届けることができ、幸せな気持ちになりました。

今年の夏の“酷暑”では、本校の花づくりにおいても土づくり、デザインづくり、苗づくり、そして移植してからは朝夕の水やりに毎回1時間以上を要するなど、まさに暑さとの戦いでした。それでも、「花のある暮らしは、心を豊かにする」を合言葉に職員、児童、保護者が協力して頑張りました。EQ（心の知能指数）で有名なアメリカのダニエル・ゴールマン氏は、「利他心は伝染する」と言っています。花を通して喜んでもらいたい、役立ってもらいたいという心は、いつか人から人へ伝染します。私たちの取組が、いつか自然とバトンパスされ、花を通したやさしさリレーとしてが続いていくことを願って、これからも花づくり、花壇づくりに取り組んでいきたいと思えます。



一般の部 西軽海1丁目町内会代表 北道 民子

私は花が大好きで、ゴミ集積所に花鉢を置き始めたのは20年ほど前からです。すぐ横の緑地帯に本格的に花鉢を並べ始めたのは、その1、2年後でした。しばらくして町内会の方から、「JAの花いっぱい運動に参加すると補助金が出るよ」と教えてもらい参加したのがきっかけで、その後、JA主催の「花の勉強会」に欠かさず参加するようになりました。お陰様で、肥料の必要な花、肥料が少なくてもよい花、切り戻し方など、多くのことを学ばせていただきました。



花づくりに必要な仲間づくりは、西軽海1丁目の近所の方たちが「手伝うよ」と声をかけてくださり、夫や町会長さんを含めて15名にまでなりました。今年は小学2年生の女の子が、何度か手伝ってくれました。

ゴミ集積所はいつもきれいです。近所のグループホームの方々が施設の方と散歩に来られた時には、花壇の花と大賞・金賞のプレートに大拍手をしてくれました。きれいな花を介して、「ありがとう、心が和むよ」「毎年楽しみにしているよ」と声をかけてくれる方々と、「応援してくれてありがとうね」と言葉のキャッチボールをできることが最高にうれしいです。また、花のある所にはきれいなアゲハチョウやモンシロチョウたちもいっぱい集まってきます。こんな素敵な花いっぱい運動に参加できて心から感謝しています。ありがとうございました。

◇ 平成30年度絵本センターのつどい

平成30年度の絵本センターのつどいは、11月22日（木）、県庁行政庁舎の5つの会場で講演会とおはなし会を実施し、212人が参加しました。



開会挨拶（玉屋匡康事務局長）

○絵本ホームライブラリー運動

石川県健民運動推進本部が昭和50年度から、「幼い時から書物に親しみ、豊かな心を育て、親子の対話の場を広げる」ために推進した運動です。

○絵本センター

絵本ホームライブラリー運動の推進のため、昭和51年度から、保育所（園）、幼稚園、認定こども園、児童館、地域子ども文庫など約千箇所それぞれ約50冊の絵本を贈呈し、保護者等が絵本を借りて家に持ち帰ることが出来る「文庫」を玄関や廊下に設置してもらいました。

この文庫を設置した施設を「絵本センター」と呼び、地域の核となって「絵本ホームライブラリー運動」の推進に尽力していただくことといたしました。

平成6年度には、県内全ての保育所（園）、幼稚園、児童館等が「絵本センター」になりました。

実践研修会

「子どもたちに絵本を ～選ぶことの大切さ・ともに楽しむことの喜び～」

○講演会

「絵本が育む子どもの育ち」

講師 江藤裕子さん

富山県図書館を考える会代表

富山福祉短大幼児教育学科非常勤講師

子どもの年齢と絵本の主人公の年齢が近いと、子どもの共感が得られやすい傾向があることなどを例に挙げながら、絵本の選択についてわかりやすい説明がありました。

また、子どもに絵本を読み聞かせた後に、大人はつい、絵本の内容について、「あの時、〇〇ちゃんが泣き出したのはどうしてかなあ？」「このお話はおもしろかったかな？どこがおもしろかったかな？」などの質問をしたり感想を聞いたりしますが、絵本を聞くことに夢中になっていた子どもにとっては、必ずしも良いことではないとのお話もありました。

参加者からは、「絵本の内容がどの年齢に適しているものなのか、子どもの成長過程に合わせて大人が提供していくことの重要性を感じた」など多くの感想が寄せられて、講演会はたいへん好評でした。



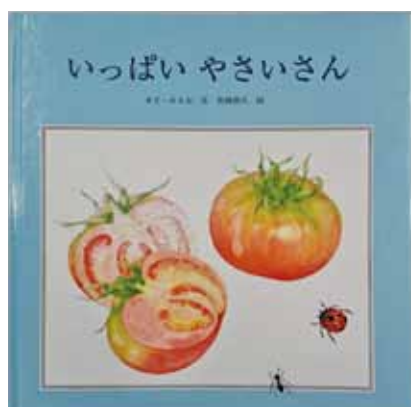
○おはなし会

「子どもたちと楽しむおはなし会」

講師 石川子ども文庫連絡会の会員のみなさん

約200人の参加者が4つの教室に分かれて実施されました。日頃は絵本を読み聞かせる側の参加者たちも、この日は講師の読み聞かせや紙芝居に聞き入ったり、見入ったり、また講師のリードでわらべうたを一緒に歌ったり、手遊びで遊んだりするなど、和やかな雰囲気の中にも、参加者の熱心な気持ちが真剣な眼差しに表れていました。

参加者からは、「聞き手になる機会があって、子どもの気持ちになり楽しめました」「資料や人形などの紹介がいっぱいあって、実践したいなあと思い、わくわくしました」「おはなし会は聞くだけでなく、見るだけでなく、全身で感じて楽しむものだなあと思いました」「保育士の経験が浅く、知識もあまりないので、今回参加して大変良かったです」など多くの感想が寄せられて、おはなし会はたいへん好評でした。



平成30年度の贈呈絵本

「いっぱい やさいさん」

まど・みちお／文 齊藤恭久／絵

平成7年度以降の「絵本センターのつどい」では、絵本センター1か所につき1冊～2冊の絵本を贈呈しており、今年度も185冊の絵本を贈呈させていただきました。贈呈絵本の累計は、約8万冊となっております。

◇健民運動活動紹介

平成30年度「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業（中央研修大会）」

内閣府主催の中央研修大会が、11月26日・27日の2日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで、「若者の居場所を考える」をメインテーマにして開催され、健民運動推進本部関係者からは5名が参加し、研修を受けました。

【特別講演 要旨】

演題 犯罪から子どもを守る

講師 小宮 信夫 氏（立正大学文学部社会学科教授）

平成30年5月に新潟市で小学2年女子児童が下校途中に誘拐され、殺害・死体遺棄される痛ましい事件が発生した。この事件では、被害児童が1人になった場所には見守りがなく、「死角」となっていたことが指摘された。では、社会全体で死角をなくし、子どもたちを守るためにはどのように対処すればよいのか。日本では30年前に、宮崎勤死刑囚による連続幼女誘拐殺人事件が発生しているにもかかわらず、子どもの防犯に関しては未だに後進国である。

過去の誘拐事件犯罪者の供述等によれば、犯罪者が誘拐に適していると考えている場所（ホットスポット）は、一般人が防犯上、危険と考えていた場所と大きく異なっている場合があることがわかった。防犯対策を講じる際には、犯罪を「動機→機会→犯罪の実行」の3段階に分けて捉えると効果的である。そして、防犯上最も重要な段階が2番目の「機会」であるという考え方を「犯罪機会論」と呼んでいる。具体的には、「誰もが入りやすい場所」と「誰からも見えにくい場所」を極力減らし、そこを重点的にパトロールすることがポイントである（ホットスポットパトロール）。防犯対策が進んでいる国の公園では、子どもが遊ぶための空間はフェンスで囲まれており、フェンスの外に並べられたベンチの背もたれは、保護者が子どもを狙っている者がいないかを見張るためにフェンスの外側に向けられている。

こういったホットスポットに関する認識を改めて、これを大人だけでなく、子どもたちとも共有するための「子どもたち自身がホットスポットを考える防犯教育」が必要である。また、地域で子どもの見守り役を担っている方々に高齢者が多い現状では、パトロールそのものを効果的かつ効率的に行うことが必要であり、その点でも犯罪発生のお機を極力なくすための「ホットスポットパトロール」が有効である。

【シンポジウム パネル・ディスカッション】

テーマ 「若者の居場所を考える」

コーディネーター 松田 考 氏（札幌市若者支援総合センター館長）

パネリスト 辻 幸志 氏（特非活 こうべユースネット理事長）

西野 博之 氏（特非活 フリースペースたまりば理事長）

石井 正宏 氏（特非活 パノラマ代表理事）

高橋 亜美 氏（アフターケア相談所「ゆずりは」所長）

困りごとを抱えている子ども・若者に対する「第三の居場所（サードプレイス）」について、それぞれの立場から実践に基づいた意見交換が行われた。概ね共通していたポイントは、①スペース（空間）よりも関わってくれる人による支援（ユースワーク）が大切であること、②成功例では関わる人の役割が次々とシャッフルして

いくこと、③支援者側の都合よりも、被支援者からの要望に応えることが第一であること、④ボランティアの活用度は立場により差はあるが、活躍してもらう場合には必ず研修を受講してもらい、守秘義務などのルール遵守の徹底を図っていることなどであった。



【専門研修会】

4部門から予め2つを選んで受講することができたので、その概要を報告する。

【第1専門研修会】

- ・ 「ゆう杉並」は杉並区立児童青少年センターの愛称で、中高生優先の大型児童センターである。運営には利用者代表としての「中・高校生運営委員会」が開館以来関わっており、職員：委員会＝50：50の構成メンバーで企画・運営等を検討し決めるなど、中高生が主体となる運営方針である。
- ・ 担当者は利用者の要望に応える形で関係機関や民間とのパイプ役となって、イベントの企画・運営を通して中高生に多様な学びの場を提供している。
- ・ 学校教育以外の部分で行政と地域が一体となって子ども・若者をサポートしている実践事例である。
- ・ 現在のゆう杉並の4機能は、①居場所（中高生一人ひとりに心地よい居場所づくりをめざす）、②参画（中高生の意見を運営や環境づくりに活かす）、③支援（困難を抱えた中高生と家庭をサポートする）、④地域との連携・多世代交流（中高生を地域や企業とつなげて、彼らの可能性を伸ばし、未来を紡ぐ）である。
- ・ ゆう杉並で一番大切にしている要素は「建物・施設」、「プログラム」ではなく「スタッフ」である。中高生と接するとき大切にしていることは、①察する力、②寄り添う力、③つながる力とつなぐ力である。

【第2専門研修会】

- ・ 実践発表であるが、取組に対するPDCAサイクルが見事に機能しており、正のスパイラルで徐々にセンターの機能が充実してきた様子が分かりやすく報告された。
- ・ 当該センターで出会う子ども・若者たちは、「海を見たことがない」「誕生日を祝ってもらったことがない」などの経験から排除された立場の人であることが多く、そのため「話のネタ」さえもないために、他者との関係性に困窮している。
- ・ 支援に大切な要素として、専門性を持った大人と関係性をもってくれる大人のいずれも大切であるが、当該センターでは関係性をもってくれる大人をより多く必要としている。
- ・ 相談所であるが、家庭訪問などのアウトリーチ（積極的に対象者が居る場所に出向いて働きかけること）を行っており、近年はオーダーメイドのアウトリーチに取り組んでいる。SOSを発信できる子ども・若者は、困りごとを抱えている大きな氷山の一角に過ぎないことから、今後は困りごとを抱えた人たちの掘り起こしに取り組んでいきたい。
- ・ 就労支援にも取り組んでいるが、名古屋市行政の理解もあり、就労につなげるような指導を数値として求められることはない。

◇子どもの夢実現サポート事業(続報)

○小さい折り鶴をつなげて巨大な折り鶴をつくりたい

日時：平成31年1月20日(日) 場所：一步(能美市障がい福祉事業所)

実行委員会名：宮っこTenzu(能美市)

「夢」 「平和」への想いをこめてたくさんの小さい折り鶴をつなげ、巨大な折り鶴を作り、たくさんの人に見てもらいたい。



○大好きな能楽をいろんな人に広めたい

日時：平成31年1月27日(日) 場所：県立能楽堂別館

実行委員会名：野々市子ども能楽教室(野々市市)

「夢」 大好きな能楽の楽しさをみんなに知ってもらい、仲間を増やすためにワークショップを行って、日本の伝統文化である能楽に触れてもらいたい。



薫風

石川県サイクリング協会
理事長 岡本 勇

～風を感じて走るサイクリングの楽しみと交流～

石川県サイクリング協会は、昭和32年よりサイクリングに関する活動を継続しています。昨年春に新しい企画として、白山ろくテーマパーク吉岡園地で開催の「自転車から見た風景水彩画スケッチ展」を鑑賞するサイクリングを行いました。スケッチを描かれたサイクリストの宮本氏ご本人にも参加していただき、会場で説明を聞きながら鑑賞しました。【写真1】今年も途中で参加者もスケッチしながらサイクリングする予定です。



【写真1】

また、初夏には一里野温泉スキー場でスポーツ自転車32社の出展を頂き、最新モデルの試乗会を開催しました。子供専用のコースもありファミリーの参加も多く大盛況でした。【写真2、3】



【写真2】

当協会後援で毎年開催の「ツール・ド・のと400」は第30回記念で、石川県庁をスタート会場にして行われました。【写真4】台湾からのサイクリストの参加など、ここ数年、海外のサイクリストと交流する機会も多くなりました。5月に開かれた音楽祭では、ザルツブルグの管弦楽団の方がリハーサルの合間に、ごく自然に自前のサイクリングウェアを着て現れ、しばらく談笑した後、金沢市内を颯爽とサイクリングされていたのがとても印象的でした。



【写真3】

さて、平成28年国会にて、衆参全員一致で可決された自転車活用推進法が翌29年より施行され、それに基づいて自転車活用推進計画が昨年6月に発表されました。健康増進、交通、教育、道路政策、地域活性化、シェアサイクル、災害時の交通機能の維持、インバウンド対策など全てにおいて今後、国民レベルでの自転車の活用を促す政策が出てくると思います。また、欧州で人気の出たスポーツ電動自転車(E-BIKE)が、日本でも国内法に合わせた基準で昨年より発売開始となり、1回のフル充電で200km走れることなどにより、女性や高齢者の方でも長距離サイクリングが可能になることで、老若男女を問わず愛好家が益々増えると予想されます。



【写真4】

しかしながら、マテリアルは進化しても自転車の操作、ルールの基本は何ら変わることがありません。石川県サイクリング協会は自転車の安全利用に向けて、指導者の養成事業や交通ルールを守る啓蒙活動なども、行政と連携しながら行っていきたいと考えています。

『あいむ』だより



収集物（1月分）＜使用済み切手など＞

地域振興課、空港企画課、スポーツ振興課、計量検定所、文化財課、匿名の方 計6件

ご協力ありがとうございました！

ご提供いただきました使用済み切手、書き損じハガキにつきましては、さまざまな支援を必要としている人々に役立てていただいております。ぜひお寄せください。

石川県平成30年度NPO情報発信力向上セミナー開催事業 **広報**は影の力の後方支援 だから **NPO なふつか。**

| | | | |
|---------|-------------|------------|---|
| 3月2日(土) | 10:00~13:00 | ①NPOの基礎コース | 何故NPOには広報力が必要なのでしょう。成り立ちと、活動のつくり方からわかるNPOの仕組みに納得！ |
| | 14:00~17:00 | ②運営の基礎コース | 会員拡大、助成金申請、事業報告など、日々の業務は全て広報の要素で成り立っていることに納得！ |
| 3月3日(日) | 10:00~13:00 | ③広報これからコース | NPOの広報媒体にはどんな種類があるのでしょうか。そしてそれらの特色や有効な活用法を団体の特性から理解できるので納得！ |
| | 14:00~17:00 | ④広報ごしごしコース | あらかじめ提出していただいた団体の広報媒体を、診療所に見立ててクリニックします。聴講するだけでも納得！ |

会場／石川県NPO活動支援センター「あいむ」会議室

内容①～④、いずれも選択組み合わせ自由

参加費／無料（要申込） **定員**／各コマ（①～④）約20名

お問合わせ／NPO法人 i-ねっと

TEL：076-232-6673 FAX：076-232-6674

E-mail： ishikawa@inetnpo.com

※同じ内容で2月23日、2月24日に

石川県地場産業振興センターでも開催します。

NPOの入門的な要素と、
広報の要素を組み合わせた4コマの講座を通して、
もりもりと団体力をつくりましょう！

石川県NPO活動支援センター（あいむ）

〒920-0961 金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモーダ7階

TEL:076-223-9558 FAX:076-223-9559

<http://www.ishikawa-npo.jp>

会議・打合せ等に「あいむ」をご利用ください！（会議室使用料無料）

・お問合せ、ご予約は上記「石川県NPO活動支援センター（あいむ）」まで

《9:00～22:00（土、日曜日は17:00まで、月曜日・祝日は休館）》

・香林坊地下駐車場をご利用ください。駐車料金を助成しています。



毎月第3日曜日は「家庭の日」です
～ 家族とのふれあいを大切にしましょう ～



毎月7日は「健康の日」です。
～ 歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう ～



発行：石川県健民運動推進本部

〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地 TEL 076-225-1366
石川県県民交流課内 健民運動推進本部 FAX 076-225-1363

インターネット

健民運動

検索

E-mail

 twitter



kenmin-i @pref.ishikawa.lg.j

kenmin_undou

Facebook @kenminundou



QR コード